

ぐんしゅう

No.
202

群私幼事務局／☎371-0854 前橋市大渡町1-10-7



群馬県公社総合ビル6F 私学センター内
TEL.027-280-6206/FAX.027-280-6208

URL・<http://www.gunshiyou.jp/>

発行人 権頭 俊澄・編集人 河上 崇

CONTENTS 2025年(令和7年)3月19日発行

特集 群私幼の研修会 2～5

- その他の研修会 6
- フロムぐんまちゃん 7
- 幼児教育センターより 7
- 子どもの目線から 8
- 子どもと楽しむ絵本 8
- お知らせ 8



「協会の組織が 変わります!」



本協会は、令和7年度より、組織改編されることが臨時総会で可決されました。総務部・経営振興部・研究部の「3部制」から総務部・研究部の「2部制」となり、2名の副会長が部長を兼務し、副部長4名の体制となります。

どうぞよろしくお願いいたします。



主な事業内容	
群 私 幼 研 究 部	協会全体の運営と、経営振興に関すること
	予算・決算作成
	諸規則改訂、渉外
	広報編集長
	ニューリーダーの会等
私 幼 研 究 部	IT関係等
	群P連
	研修全般に関すること
	主任研修会
	設置者園長研集会
	バス運転手講習会
	看護師研修会
	次世代育成研修会
	新採研①～新採研⑦
	初級講座
部	中級講座
	上級講座
	WEB講座
部	関東地区教員研修

みんな～遊ぼう！早くおいでおいで！



秋季研修会 講義1

「教職員のやる気とやりがいを育てる」



父親が育児に参加する大切さと父親である幸せの2点を同性の目線から感じられる講義に、自分の保育・育児を共に振り返る良い機会を持ってました。保育者としてだけでなく、同じ男性として園に顔を出してくれる父親に声をかけていき、より育児に積極的に関わっていきけるよう援助が必要だと感じました。そして育児に関わることで父親本人だけでなく家庭・子どもが幸せになるという事を広く拡散していく大切さも学ぶことができました。

令和6年11月5日(火) 群馬県公社総合ビル

安藤 哲也 先生

慈教幼稚園 泉川 篤志

自分も父親という立場から今までを振り返った時、息子と朝一緒に登園し、一緒に降園することが出来ていた事に園と家族に対して感謝の思いが溢れてきました。まだ育児制度が確立した社会ではありませんが、少しずつ改善に向かえるよう声を上げていこうという気持ちが芽生えました。

また、「人生100年時代」のライフデザインをワクワクした気持ちを持って彩っていけるよう保育者として、父親としてよい相乗効果を生み出しながら、楽しんでいこうと思うことができた研修でした。

秋季研修会 講義2

「幼児教育指導者のための防災研修」



今回初めて、金井先生の防災研修を受けさせて頂きました。こういった内容の研修を受ける機会は今まであまりなかったもので、とても参考となり自園の防災対策を再確認する良い機会にもなりました。また、研修内では他園の先生方と話し合う機会も設けて頂き、取り組みを知ることができたことも良かった点でした。研修内容で学んだことは、今まで自分が思っていた防災に関する考え方とは異なる部分が多くあり、全てが学びへ繋がりました。また、

令和6年11月5日(火) 群馬県公社総合ビル

金井 昌信 先生

粕川幼稚園 船戸 恵里佳

地震発生翌日、直後に考えておくべき対応をととても明確に教えて頂きました。今後、園内研修での議題として取り上げ、保育者同士で話し合い、見直し、備えについて細かな所まで考えていけたらと思いました。

この研修を受けたことで、改めて子ども達の大切な命を守るために何が大切なのかを園全体で考え直したいと思います。また、どのような状況の時でも「子ども達が安心して過ごせる環境」を考えられるように、保護者との連携を大切にしていきたいと強く感じさせられました。そのためには、保護者とも防災について考えられる機会を設けられると良いなと思いました。

冬季研修会 講義1

令和6年12月23日(月)～令和7年1月5日(日) オンライン動画視聴

「0・1・2歳児の保育の多様性について考える」

大方 美香 先生

東別所幼稚園 渡邊 三希



保育の多様性について考える

多様性の時代と言われている今「保育の多様性」とはどのような事柄が当てはまるのか明確な判断が難しい中、子どもの家庭環境・性別・国籍・宗教・障害など様々な側面から想像できた有意義な講義でした。誰かの為の支援が派生し、周りの園児に対してわかりやすい支援となり、子ども達の社会的情緒の発達に繋がる事で、他者との交流が安心して行えるようになっていく。「保育の多様性」を理解する事で、保育の質の向上を図ることが

今、現場に求められていると実感しました。それ以上に保護者に寄り添い、どのような悩みに直面しているか、どのような考えをしながら子育てしているかを視野に入れ、如何に子どもの育ちに繋げていくか…私達保育士次第で未来が変わってしまうといっても過言ではありません。子ども一人ひとりが個性を持っているのと同様、保護者も十人十色、子育ての理想型に拘ることなく、保育士がしっかりと理解のもと、適切な助言を心掛け、子育ての光を見せられる存在でなければならぬと感じました。私達保育士は子どもの育ちに対する専門家であり、将来を担う責任を担っています。この研修で得た知識を忘れる事なく、一人ひとりに寄り添う多様性の保育を目指していきたいと思っています。

冬季研修会 講義2

令和6年12月23日(月)～令和7年1月5日(日) オンライン動画視聴

「『発達障害』と間違われる子どもたち」

成田 奈緒子 先生

太田いずみ幼稚園 岡 穂乃花



「発達障害」と間違われる子どもたち

発達障害とされる行動や症状は、必ずしも発達障害そのものではなく、脳の発達が未成熟なために見られる場合もあると学びました。脳の発達は段階的で、まず「生存機能」が発達し、次に「言語や運動、勉強、スポーツ」、最後に「社会性」が成熟します。最近、小学校受験に向けて早期に高度な学習を強いることで、脳の発達が順序通りに進まず、発達障害と疑われる行動が増えている

と指摘されています。

保育者としては、発達の順序を理解し、正しい脳の育成を行うことが重要です。特に、乳幼児期には生活機能の基礎を育むことが大切で、基本的な生活習慣を身につけさせることが発達を促進します。自身の周りでも多くの保護者が学習や運動を重視しがちですが、自発的に起床し、身支度を整えるなど、生活習慣を育てることが最も大切です。さらに、これらは午前中に行うと効果的であり、園でも朝の時間を使って基本的な生活習慣を楽しく習得できるようにして、脳の土台を築いていきたいと考えました。

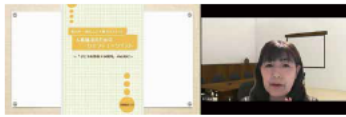
冬季研修会 講義3

令和6年12月23日(月)～令和7年1月5日(日) オンライン動画視聴

「0・1・2歳児の指導計画の作成のポイント」

和田 美香 先生

いずみ幼稚園 荒木 優花



私は今回の研修を受け、未満児における主体的な子どもの保育計画を立てる上で、子ども達の今の姿を様々な視点から見て作ることの必要性を学びました。例えば、乳児の生活は、生理的欲求を満たすことで成り立っている為、1つの玩具や同じ玩具をみんなで使うのではなく、気づいたものやことで遊ぶことが大切であり、壁に玩具があることで立ち上がりやすくなり、尻もちをついても大丈夫な

ように床を広く用いたりするなど、一人一人の子ども達に合わせた管見性を計画する大切さに改めて気づかされました。そのためには、子どもの具体的な興味や関心を捉えることがとても重要だと思いました。また、言葉が未発達な子ども達に対する言葉かけにおいても同様であると思いました。1つ1つの欲求や行為を言葉に表わして伝えるようにすることで、見通しを持って安心した園生活が過ごせる環境になると感じました。自園の園内研修でも、言葉かけのチェックシート等を取り入れながら、自分の保育を見直す機会を設け、温かい保育で子どもと関わっていけるよう努めていきたいです。

「食育」研修会

「食べることで子どもは育つ！」



「食育は楽しい！」今回の研修を受けて子ども達の食事の時間が楽しいものになってほしいと感じました。

子どもは苦手なものがあって当たり前だと頭の中ではわかっている、いろいろなものを食べてほしい、「経験してほしい」と思ってしまうので、美味しく食べてもらうために現場でできる工夫や努力をしていきたいと思いました。例えば、給食を食べる前「おなかすいたなあ」「今日の給食なんだろう？」等の声掛けをして、お腹がすくリズムを作り、給食の時間は楽しいと思ってもらえる環境をつくるのが大切だと感じました。

令和6年10月30日(水) 群馬県公社総合ビル

野口 孝則 先生

ちぐさこども園 早川 七海

「頑張って食べてみて？」や「体にいいから食べてみよう」等の声掛けは子ども達にとってプレッシャーになってしまい、食事の時間が苦痛になってしまうことを学びました。また、偏食の子が普段より食べられていたら褒めることで自信につなげていきたいと思いました。

「できていないところ探しの食育」はやめて「できているところを褒める食育」を意識していきたいと今回の研修を受けて感じました。子どもの成長や一人一人に合わせた食育や食支援を行うことで食べることを楽しんでもらえるのではないかと思います。

今の子ども達にとって食べることは始まったばかりなので、食べたことのないものや知らない食べ物がたくさんあると思います。楽しく美味しく色々なものを食べて、大人になってからも食に関心を持ち続けてほしいと思いました。

第2回主任研修会

「今、主任に求められる役割とは」
「グループ協議」

今回の主任研修では、質疑応答やグループ協議があり、講師の先生の話や県内の取り組みを聞き様々な意見や想いを聞くことができとても有意義な時間でした。

講義の中で、活かしてみたいと思った点は、1on1など話す機会を増やすこと、効率化を目指し色々なICT化やアプリの導入をする事です。事務作業も多く、忙しい中での情報の共有には様々な先生たちが思っていることを話し聞く機会を増やすことが大切で、便利なものを導入し効率的に仕事

令和6年11月11日(月) 群馬県公社総合ビル

落合 陽子 先生

第二ひかり幼稚園 伊豆 かなえ

をしていくことにより、時間削減となり職員の負担が減ると思いました。

どちらも簡単にできることではありませんし、導入する為に準備や時間の確保が必須だと感じています。それでも大切だと思ったのは、そのことが子ども達へのより良い精神・そしてより良い同僚性へと繋がると思ったからです。

グループディスカッションは他の園の主任の先生と話し、主任としての難しさ、役割を考えさせられました。中間の立場になり、園長先生のサポート、後輩たちの育成に力を入れ、今回学んだことを活かしていきたいと思いました。

第二次設置者・園長研修会 1日目

基調講演「今だからこそ考える、幼児教育で大切なこと

～保育の質を支えるマネジメント～

藤本 明弘 先生

発表「園をより良くする県内での新しい取り組み

～OPARKを使って～

松村 芳子 先生・根岸 良太 先生

グループ協議「保育マネジメントについて考える」

高崎商科大学佐藤幼稚園 永井 智江



社会が絶えず変化し、人の暮らし方はもちろん、価値観が変わってきていることは日々感じています。対人関係で、何でも人のせいにして自分の気持ちはぶつけるもの、相手のことは待ってあげられない人が増えていることも事実であると思います。そのような現代社会について把握し、疎遠になりがちな人間関係を克服して行くきっかけの場を園が作り、保護者が子育てに喜びを感じてもらえるような接し方

や支援をして、幼稚園時代を園と家庭とで手を取り合っ子ども達を育てて行きたいと思いました。この研修に参加して、始めて耳にしたOPARK。園が掲げている建学の精神、教育目標、特色や課題を深く正しく理解し、職員にコンセプトとして明確に伝える事が園の質の向上、保育者の働き易さ、そして何より子ども達のより良い育ちに繋げる取り組みであることを知りました。これからは、不具合が解消され快適に起動するスマホのように、環境や状況にあったアップデートを恐れず行い、少子化に突入した今、保護者に選ばれる園になるように職員が同じ方向を向き軸のブレがなく、充実した保育の提供にチーム一丸となって力を注いで行きたいと改めて感じた研修でした。

第二次設置者・園長研修会 2日目

講演『宇宙開発の今と未来』～意外と身近な宇宙技術～

渡戸 満 先生

講演「少子化時代を生き抜く園経営」

大塚 佳治 先生

まきば幼稚園 齋藤 智世



宇宙開発技術と聞くと難しく、自分にとって知らない世界だと思っていました。しかし実際は、私達の生活の中にあまりにもさりげなく馴染んでいて、恩恵には気づきにくいものの様々な分野で活用され、私達の生活をより便利に豊かにしてくれているということが分かりました。中でもISSでの創業については興味深く、地上では熱対流のために上手く作ることが出来ないんばく結晶も宇宙空間では上手く生成することが出来ると知り、今や宇

宙空間は遠い場所ではなく、人類が進化をしていく上での新しいフィールドの1つなのだと感じました。

園経営を行っていく中では、変わっていく社会構造やシステム、法整備等に適宜対応していくことが求められます。自園で大切にしたいことを守りながら、子どもを中心に据えた園経営を円滑に行っていくためには、適切な情報入手し「備える」ことが不可欠です。当自治体も消滅可能性自治体に新しく加えられており、今後は自治体とも相談しながら、これまで以上に子育て支援対策や教育環境整備に取り組み、考えていく必要に迫られています。社会のニーズ・働き手のニーズ・子ども達のニーズをしっかりと捉え、上手く折り合いをつけながら時代に沿った園経営を行って行きたいと思いました。

次世代育成研修会

「預けることに躊躇しない親たち」



今回の研修会では、保育教諭として、また、3人の息子を持つ保護者の立場として、とても考えさせられる研修でした。子どもは0か月の生まれた瞬間から、私たちが親しくなれるように幸せを与えてくれているという役割があるそうです。そして、月齢が上がると笑う・喜ぶという表情を見せてくれ、その様子を見た親は嬉しくなり「自分はいい人間なんだ!」と気づくそうです。反対に泣かれてしまうと「泣き止んでほしい!」

令和6年12月6日(金) 群馬県公社総合ビル

松居 和 先生

いしい幼稚園 棚橋 典子

と思い、努力して試行錯誤しながら育児をするそうです。そんな中、男子3人を育てていると、松井先生も話して下さった通り「子育てって忍耐だね・・・」と日々思うこともあります。

そんな事を思い出しながら、「おかあさん、どこ?」の話を聞き、上の子の「もっと甘えたい!」などの気持ちを想像して、耐えていた涙があふれてしまいました。

「ママがいい!」と思いながらも、子ども達は毎日がんばっています。多くの方が「ママがいい!」の本を読み、子どもとの時間や関わりを増やしていけるような時代になることを願っています。



学校安全実践力向上研修会

『危機管理マニュアル』見直しワークショップ



からご教示いただきました。

ワークショップでは、各園が策定している危機管理マニュアルを

講義では過去の事例を交えながら、現行の危機管理マニュアルが想定すべき危機事象を網羅しているか、見直しのサイクルが適切に設けられているか、実効性が確保されているか等、危機管理マニュアルの重要性を多角的な視点

令和7年1月20日(月) 群馬県公社総合ビル

首藤 由紀 先生

ぐんま幼稚園 福島 玄和

発表し合う機会があり、他園が取り入れている危機管理策を知ることなどで自園の課題や改善点に気づき、改めて対応策を再検討する必要性を実感しました。また、緊急事態に直面した際、リスクを軽視したり無視したりすることで重大な事故につながる「正常バイアス」についてもご教示いただき、こうしたリスクを回避するためには、教職員が迅速かつ的確に対応できるマニュアルを整えることが重要であることを再認識する機会となりました。

今回の研修会を通じて、危機管理の重要性と課題について深く考えさせられただけでなく、実際の改善に向けた具体的なヒントも得ることができ、非常に意義のある研修会となりました。

群私幼研修大会(公開講座)

令和7年2月6日(木) 人材派遣ワイズコーポレーション境総合文化センター

基調講演「子どもが中心の共主体について」

大豆生田 啓友 先生

文化講演「子どもの興味を引く不思議の世界」

岡田 一美 先生

白ばら幼稚園 依田 真美



大豆生田先生の「子どもの頃の私は、大人の今の私の中で生き続けている」という言葉を聞き、乳幼児期の体験に寄り添う保育者の関わりがどれだけ重要であるかを感じました。子どもがいつでも甘えられ、愛されていること。その中で遊びと体験が認められていること。遊びのプロセスを共有し、子ども・保育者・家庭・地域が共にワクワク

学び合う共同体となっていく方法も知りました。私の働く園でも教師間で遊びについて対話すること、簡単な言葉で記録をとることを実践しています。一人ひとりの園児が今、何を感じながら何を探索し楽しんでいるのか読み取り、子どもと一緒にワクワクサイクルを築いていきたいと思いました。そして2つ目の講演では岡田先生が静かに登場し、手品が好きな私はあっという間に興味を引きつけられました。女性の身体が箱の中で入れ替わってしまう大掛かりなものから、保育で活用できるものまで様々でした。園には、絵画や和太鼓、運動遊びが好きな先生…と様々です。お互いが発揮し、共主体の関係性で保育を楽しんでいけたらと思います。

臨時総会 第三次設置者・園長研修会

「幼小架け橋プログラムのこれから」



令和6年度第三次設置者園長研修及び臨時総会が行われ、来賓の祝辞の中で私立学校法の改正によりすべての学校法人の寄附行為の変更を今年中におこないたいとお話がありました。又令和7年度の補助予算額は、今年度とほぼ同額とのことでした。

研修会では、「幼小架け橋プログラムのこれから」発言を窓口に

令和7年2月19日(水) 群馬県公社総合ビル

中村 崇 先生

櫻丘幼稚園 北原 美知子

して架け橋期の学びを考えるというテーマで講演していただきました。小学校との連携・接続についてどう進めていったらよいのか悩んでいました。今回の研修で今あるカリキュラムを基にしていこうと、5歳児修了時の姿の指導計画を見直しすること、修了時を念頭に置いた振り返り、見直しなど子どもを中心に考えていくことの重要性を感じました。

臨時総会では、幼稚園教諭・保育士適性検査の中止、事業計画案では、三部で運営していた組織を二部の組織で運営していくこと、予算案について審議されましたが、全員一致で承認されました。

研究委員研修会（東部地区）

令和6年10月17日(木) 太田いずみ幼稚園
令和7年1月15日(水) 金山幼稚園

「感覚特性と行動特性について～どのように感じ、捉えているのかを考える～」 廣田 雄一 先生

金山幼稚園 知久 遥紀



令和6年度「東部地区研究委員研修会」に参加させていただきました。

第1回は、グループ協議を行いました。“多様性”の一言をとっても外国籍や発達障害、ジェンダレスなど様々な観点からの意見が飛び交いました。情報共有を経て、個々に合わせたコミュニケーションをとること、固定概念に捉われずに関わりを持つことが必要なのだと実感しました。

第2回は、理学療法士の廣田雄一さんより講義をしていただきました。感覚について詳しく学び、幼少期には子どもが楽しいと思えるような感覚統合の環境を構成していくことが大切だと思いました。また、土台となる感覚が十分に働かなければ、その後の能力の発揮に影響が出やすいと知りました。今後の保育では、子ども一人ひとりの感覚特性は異なることを念頭に置き、その子の行動を捉え、理解して関わっていきたいです。



研究委員研修会（西部地区）

令和6年10月25日(金) 藤岡幼稚園
令和7年2月21日(金) なのかいちこども園

「発達障害が疑われる子どもたちとの関わり方を考える」

栗山 宣夫 先生

のぞみ幼稚園 橋本 将人



今年度西部地区では、2回の研修を行いました。1回目は、自園にいる気になる子についての悩みや支援方法について対面方式でグループワークを行い、情報交換をしました。保育者同士の意見交換の場となり、悩みを打ち明けたり、アドバイスを共有することで明日からの保育への活力へと変わったとの感想も聞こえてきました。

今年度西部地区では、2回の研修を行いました。1回目は、自園にいる気になる子についての悩みや支援方法について対面方式でグループワークを行い、情報交換をしました。保育者同士の意見交換の場となり、悩みを打ち明けたり、アドバイスを共有することで明日からの保育への活力へと変わったとの感想も聞こえてきました。

2回目は、栗山宣夫先生（育英短期大学保育学科教授）に、講義していただきました。テーマを通して、多様化する障害に対する知識の整理、園内でのそうした子ども達への支援体制づくりに生かしていきたいと考えています。また、正しいことを覚える教育（結果像志向の保育）ではなく、子どもなりの「わかる」を大切に保育（過程像志向の保育）の重要性を認識することができました。学んだことを生かし、子どもの気持ちに寄り添った保育ができるようこれからも努めていきたいと思っています。

研究委員研修会（中部地区）

令和6年10月21日(月) 大利根育英幼稚園分園 朝日が丘こども園
令和7年1月27日(月) 清心幼稚園

「気になる子はいませんか？～明日からの保育をよりよくするために～」

「気になる子ってどんな子？～保育の中で子どもと保護者に寄り添うために～」 塩崎 政江 先生

慈照幼稚園 栗田 愛梨



気になる子という言葉をよく耳にするようになったが、実際どのような子どもがそこに含まれてくるのか、そしてどのように対応していくことが好ましいのかは難しい問題だと思っている。今回の研修の第1回目はグループワークで様々な意見を聞くことができた。気になる子と一言でいうのは簡単だが、その姿をとらえることや対応は様々なものがあり、今回いろいろな意見に触れることができたことで一人の子どもを多面から見ていくことが大切であると改めて感じた。同じ園で同じように保

育していても保育者一人ひとり子どもをとらえる見方や考え方は異なってくる。多面から子どもを見つめることができるよう話し合う機会を作っていければと思う。

育していても保育者一人ひとり子どもをとらえる見方や考え方は異なってくる。多面から子どもを見つめることができるよう話し合う機会を作っていければと思う。

2回目は塩崎先生より貴重なお話をいただいた。印象に残っているのは「愚痴を保護者が伝えてくれるようになること」という言葉である。自分にもいろいろな保護者の方が愚痴や考えていることなどを話してくれたことを思い出し、自分の保育は間違っていないのだと自信にもつながった。子どもに寄り添いたいと思うことはその保育者も常に考えていることだと思う。今回の研修を受け、もう一度の初心に戻り保育を見つめなおし、子どもと関わっていきたいと感じた。

新規採用教員研修会 後期I

令和6年11月21日(木) 敷島幼稚園

「公開保育」

敷島幼稚園 加藤 優音



私は、今回の新規採用研修会を通して自分の保育を振り返るとても良いきっかけとなりました。保育参観の場では3歳児の担任として保育をする側に参加させていただき、学年別研究協議会では同じ担当学年の先生方と意見交換をしました。園の保育を見ていただいた中でそれぞれが気づいたこと・共感したことなどを挙げながら模造紙にグループ分けをしていきました。注目を集める声掛けや、先を見据えた配慮、環境設定な

私は、今回の新規採用研修会を通して自分の保育を振り返るとても良いきっかけとなりました。保育参観の場では3歳児の担任として保育をする側に参加させていただき、学年別研究協議会では同じ担当学年の先生方と意見交換をしました。園の保育を見ていただいた中でそれぞれが気づいたこと・共感したことなどを挙げながら模造紙にグループ分けをしていきました。注目を集める声掛けや、先を見据えた配慮、環境設定な

ど他の園での保育の進め方と自分の保育の進め方を比べながら協議することで自分の保育を見つめ直すことができ、また新たな学びへと繋がりました。同じ1年目であり、同じ担当学年を持つ先生方と悩みや不安を伝え合うことで皆それぞれの悩みや葛藤があることを知り、悩んでいるのは自分だけではないのだと背中を押されるような気持ちになりました。今回の新規採用研修会で学んだことをこれからの自分の保育に活かし、よりよい保育者になれるように努力していきたいと思います。



新規採用教員研修会 後期II

令和7年1月22日(水) オンライン開催 ZOOM利用

「園と小学校の連携・接続」
「乳幼児を中心とした児童虐待の現状と教員の役割」
「一人一人の幼児の評価と指導要録の記入について」
「研修のまとめと今後の取組」

今井 奈なえ 先生
入澤 康行 先生
太田 紀子 先生
太田 紀子 先生

二子山幼稚園 大阿久 桃花

園と小学校の連携についての研修の中で、「遊びは学び」という言葉が繰り返し使われていたように、子どもの自発的な遊びが学びに繋がっていくことを再認識した。中でも幼児期に育ってほしい姿を踏まえ、子どもが主体的に学びに向かっているような指導や関わりを工夫していきたい。

児童虐待については今後関わる子どもの中に該当する子どもがいることが想定されるため、適切な対応をとれるよう、通告の際のポイントをしっかりと押さえていきたい。また、子どもの普段の様子

をよく見ることで些細な変化にも気付けるように気を付けていく必要があることを改めて感じた。

指導要録の記入の方法については学んだことを生かし、日々の記録から子どもの良さや可能性を捉え、幼児の良さや育ちを伝えていけるようなものにしていきたい。

約1年間の研修と保育を通して得た学びや経験を振り返り、良かった点はさらに伸ばし、反省点は改善していきけるよう来年度に向けて目標をもって過ごしていきたい。

群馬県幼稚園教育課程研究協議会 第1回・第2回

令和6年6月28日(金)・10月30日(水)
オンライン開催 Zoom利用

「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について」
「主体性をつなぐ幼児教育と小学校教育」

平手 咲子 先生
今井 奈なえ 先生

木の実幼稚園 高橋 優実花

今回の研修でコロナ拡大によって「予測困難な時代」という言葉を伺いました。私自身も、コロナ禍で就職したので、今まであった行事になかなか参加できず、小学校との連携のとり方の難しさを感じていました。

その中で、子ども達が、「自分の良さや可能性を認識」できるような関わりをすることの大切さを学びました。集団行動の中で、一人一人が個性を活かして学びに繋がるような保育を心がけたいと改めて感じました。

また、他園さんとのオンラインでの交流の機会を頂けたことで、

自園では今までやっていなかった「小学校での合同授業」や「教師間でのオンライン交流会」など様々な交流の仕方や子どもとの関わり方を知ることが出来ました。小学校との連携が取りづらいつ中での不安や問題点についても様々な意見を出し合いながら参考になる意見を沢山聞くことが出来ました。

小学校との連携に関して、園で今までやってきた取り組み内容、成果や課題についてもまとめてから話し合ったことで、これからの取り組みや子どもとの関わり方を見直すきっかけにもなり、良い機会だったと思います。

全日設置者・園長全国研修大会

令和6年10月28日(月)・29日(火) 奈良県奈良市・ホテル日航奈良

「第39回全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会」

いそべこども園 吉田 和人



子ども達の故郷への愛着、日本への愛着に繋がっていく」という思いで活動を続けている西山先生の意志を強く感じとても刺激を受け

1300年の歴史を誇る古都・奈良にて研修が開催されました。記念講演は「大仏さまと子どもたち」を演題に、奈良国立博物館名誉館員の西山厚先生の講演でした。子ども達の知的好奇心をくすぐりながら「故郷のこと・地元のことを伝えていくことが、

ました。行政報告の講座では、幼児教育の現状と課題ということで、具体的なこども政策として「こども基本法とこども大綱」「こども未来戦略加速化プラン」「はじめの100か月の育ちのプラン」などの話を聞くことができました。

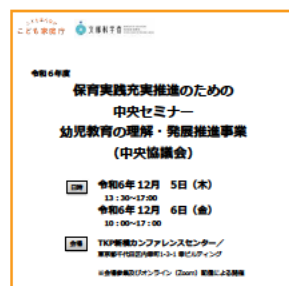
2日目の分科会【研究講座・認定こども園】では、「0、1、2歳児の保育・教育を考える」という演題のもと京都大学大学院教授の明和政子先生のお話を聞きました。チャットGPTや生成AIの時代が今後進む中で、利便化していい部分と利便化してはいけない部分があり、感性や知性などの生物としての特性を次の世代につなげていくことの大切さを脳科学や生物学の視点から学ぶことができました。

幼児教育の理解・発展推進事業（中央協議会）

令和6年12月5日(木)・6日(金)
TKP新橋カンファレンスセンター

「幼児教育・保育の質的向上に向けた地域における連携体制の構築・展開・発展」

二子山幼稚園 今井 啓太



文部科学省とこども家庭庁の合同開催による本セミナーでは、行政の保育指導者、幼児教育・保育施設の施設長と保育者、保育者養成校教員などを対象として、「幼児教育・保育の質的向上に向けた地域における連携体制の構築・展開・発展」というテーマで、2日間に渡って行政説明、講演会、分科会での研究発表・グループ協議などが行わ

れました。

その中では、「幼保小架け橋プログラム」事業の視点から、その現状・課題・今後の展望・取り組み事例などについて説明がなされました。分科会協議では、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を踏まえて幼児教育への理解を小学校側に深めてもらうために、また、幼児教育・保育施設と小学校間における相互理解のために、それぞれ様々な取り組みが全国各地でなされていることを知り、幼児教育と小学校教育との関係性における自分の地域の課題やその解決のために自分の立場でしていけることは何かについて、改めて考える機会にもなりました。





こども誰でも通園制度の意義と展望 ～すべてのこどもに良質な生育環境を提供するために～

乳幼児期の子どもは、様々な人やもの、環境との初めての出会いを通じて成長します。そのため、子どもが健やかに成長できるよう、社会全体で支えることが重要です。

現在、0～2歳児の約6割が未就園児であり、孤立した育児に不安を抱える保護者への支援が求められています。「こども誰でも通園制度」はこういった声を受け、創設されました。この制度は、全ての子どもの成長を応援し、良質な成育環境を整備することを目的としています。保護者は、就労要件によらず、月一定時間まで保育サービスを柔軟に利用できます。自治体は制度を通じて支援が必要な家庭を把握しやすくなり、リスクの高い家庭への集中的な支援が可能になると期待されています。

一方、「一時預かり事業」は、保護者の必要性に対応するサービスです。これに対して、「こども誰でも通園制度」は、家庭にいただけでは得られない様々な経験を通じて、子どもが成長することを主な目的としています。また、「一時預かり事業」は「事業」であるのに対し、「こども誰でも通園制度」は「給付制度」として実施されるため、子どもにとって一定の権利性が生じ、全国共通で実施される点が異なります。

事業者及び保育者には、社会的リソースとして次の役割が期待されています。

- ①制度の意義を理解し、専門的な知識と技術を活かして地域全体の子どもの成長に役立てること。
- ②在宅で子育てする保護者に対して、子どもの成長を伝えることで、保護者の孤立感や不安感を軽減し、子育ての負担を和らげること。

「こども誰でも通園制度」は、令和6年度の試行的事業を経て、令和7年度の制度化、令和8年度の本格実施に向けて検討が進められています。

県内では既に、前橋市、高崎市、渋川市が試行的事業を実施しています。県としては、これら3市に対してヒアリングを行うほか、今後国が示す予定のガイドライン等に注視しつつ、引き続き制度の円滑な実施に向けて情報収集して参ります。

(群馬県私学・青少年課 / こども・子育て支援課)

幼児教育センターより

「環境の構成」と「方法としての教師」

群馬県総合教育センター
幼児教育センター長 中村 崇

「環境の構成」とは、子どもが興味・関心のある環境に働き掛けて遊ぶことで（子ども本人は期せずして結果的にもしくは近い将来に）、自身の発達の課題を自分で乗り越えるための意味のある状況づくりをする教師の営みであると私は解釈しています。すなわち、ものを配置するだけにとどまらず、時間や雰囲気等が相互に関連し、周囲の人（友達・教師など）との関係性の中で環境が意味（教育的価値）をもつことに教師は意識を向ける必要があるということです。さらに、遊びの展開により環境は再構成され、常に動的な遊びを支える役割も忘れてはなりません。教師が望んでいる活動を引き出すための材料や用具を用意し、幼児の活動を誘発する“コーナー保育”に代表される「環境構成」とは明らかに違うものなのです。子どもがエージェンシーを発揮し、自らの世界を広げていくためには、「環境の構成」の考え方が必要になってきます。

環境の構成が有効に機能するためには、教師の在り方が重要になってくると考えます。我々幼児教育センターでは、子どもが環境を通して自ら主体的に学んでいくために欠かせない存在である教師を「方法としての教師」^{1) 2)}と呼ぶことにしました。「方法としての教師」とは、子どもがねらいに向かうための手立てとしての教師の在り方であり、教育の手段としての教師の存在とも言えます。いくら物的環境を整えても、

それらと子どもを結びつける意図的な教師の動きが不可欠であり、具体的には「子どもの活動の意味を理解する」「子どもの目線に立つ」「思いに共感し共鳴する」「学ぶ姿や関わる姿のモデルになる」「必要な人に対して必要なときに必要な援助を行う」「子どもが精神的に安定するためのよりどころ」などの役割が重要であると考えます。このような教師の存在により子どもは、「安心」と「自由感」を得て主体性を発揮していくでしょう。

かねてより研修等でお伝えしてきたことですが、「〇〇遊び」をさせることが重要なのではなく、子どもがどのようなことをして遊んでいても、その中に教師が教育的価値を見いだすことが重要なのです。これが環境を通して行う教育であり、遊びを通じた総合的な学びなのです。

「環境の構成」は、小学校以降の教育でも有効に働くと考えます。

- 1) 中村 崇 (2016) 幼児の運動発達を促す教師の役割. 群馬大学教育実践研究 第33号 pp.227-235
 - 2) 幼児教育センター (2025) 子どもに内在する非認知能力の発揮及び伸長を促す架け橋期の教育. 群馬県総合教育センター
- 参考資料：森上史朗・柏女霊峰編 (2011) 保育用語辞典 [第6版]. ミネルヴァ書房：京都.

子どもの目線から

「SLのスピードって…」

堤ヶ岡幼稚園 三津田 敬子

SLの試運転に乗車できる機会があり、年長の園児と乗車してきました。SLに乗車できると知った子ども達は大喜び！わくわくドキドキしながら、乗車日を心待ちにしていました。

SL乗車中には乗車記念のプレゼントを買ったり、楽しいクイズ大会がありました。SLは時速何キロでしょうという問題を考えていたとき、H君が「窓の外がママの車に乗っている時と同じ感じがする」「先生、車の速さはどれくらい?」と言いました。答えを選ぶクイズだったので、「この中だと④の60キロかなあ」と答えると、「じゃあHはこれにする!」と時速60キロを選びました。すると、見事正解!!!子どもの感性の鋭さに感心しました。高崎から渋川までの道のりはあつという間で、H君は「H、まだ乗ってたいなあ」と名残惜しそうな様子。

後日、H君のお母さんにクイズのことを話すと、SL乗車を機にSLに興味をもち、家族でSLを見に行った話をしてくれました。いつか、H君が運転するSLに乗車できる日がやってくるのかなあと楽しみです。



子どもと楽しむ絵本



題名「落語絵本 はつてんじん」

明和幼稚園 南 了太

新年を迎え、3学期が始まる頃、「年長さんにはこの絵本に出会ってほしいな」という思いで、機会があるときは、読み聞かせをしています。

「落語絵本 はつてんじん」。タイトルだけ聞くと、園児にはまだ難しそうで、タイトルの意味でさえも理解が出来にくいようにも思えますが、ページをめくって、読み始めれば、子ども達は絵本の世界へ。

読み方ひとつで、物語の伝わり方が変わるのも、落語絵本の面白さ。

「間」であったり、言葉の意味を砕いて伝えたりすることも、読み聞かせの工夫のポイントかもしれません。

とうちゃん和金坊のやり取りを通して、子ども達の中に、言葉がもつ面白さや物語の可笑しさが伝わった時、声を出して、笑いながら聴いてくれる姿は、読んでこちら側も嬉しくなるものです。まるで、自分が噺家さんになったかのように…。

読み聞かせを終えた後、「もう一回読んで!」という声も聞こえてくるので、繰り返し、楽しめるおススメの1冊だと思います。



お知らせ

ニューリーダーの会より

ニューリーダーの会では、12月26日に公社ビル6階会議室をお借りして「お泊り保育とデイキャンプ」についての勉強会を行いました。事前のアンケートでお泊り保育を行っている会員園は半数でコロナ禍等の影響もあり半数は未実施ということでした。夏の研修会でもお世話になった「あかぎの森のようちえん」理事長の櫛島先生にも講師としてご参加いただきました。実施園さんから実施時期や活動内容などについて説明をしていただきました。宿泊、日帰りなど園によって取り組み方は違いますが、普段とは違う環境の中で、子ども達が楽しく過ごせるように各園とても工夫をされていました。

櫛島先生からは「体験格差」のお話がありました。家庭環境等により自然体験や宿泊体験をすることが出来ない子が増えており、子ども達が平等に体験出来る機会を園や学校に企画して欲しいとのことでした。

自園は未実施のため、櫛島先生の言葉が身に染みる勉強会となりました。

(ニューリーダーの会代表幹事 芝崎 法承)



編集後記

春の訪れとともに、園児達が笑顔いっぱい新たな一歩を踏み出す季節がやってきました。今年も多くの子が元気に成長し、無事に卒園式を迎えることでしょう。

また、新たな年度を迎えるにあたり、本誌が幼児教育・保育のより良い環境を築いていく一助となれば幸いです。そして、日々子ども達の成長を支えながら、お忙しい中、原稿執筆にご協力いただきました先生方に、改めて心より感謝申し上げます。これからも、子ども達の笑顔あふれる園づくりにお役に立つ情報を発信できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(河上/記)

おくやみ

学校法人高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学附属幼稚園 元園長の小和瀬たかみ先生におかれましては、去る令和6年12月18日(水)にご逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。



次号203号は、令和7年6月26日(木)に発行予定です。

